



死を前にして、人は何が見えるのでしょうか？

一般的に、死を前にすると、人は怖い、嫌だ、不安、悲しいという負の感情が現れます。しかし、すべての人が、負の感情だけを持つとは限りません。たとえ目の前に死が見えたとしても、幸せである、穏やかであるとプラスの感情を持つ人がいます。

人は、その苦しみを通して、苦しむ前には気づかなかった大切な自らの支えに気づくとき、たとえ日に日に弱り、今までの自分ではなくなっていったとしても、穏やかさを取り戻します。それは、一部の人が起こす奇跡ではなく、私たちすべての人が持つ可能性です。

麻央さんのニュースは、多くの人の心を動かしました。

彼女の苦しみは、彼女にしかわかりません。

しかし、人はなお、その苦しみの中にあっても、穏やかに、力強く生きようとする可能性があります。

それまでの彼女は、すべて自分が手をかけないと気が済まない、すべてすべてやるのが母親であると…。

ところが病気になって失ってみて見えてきたものは別な世界でした。

料理を作れなくても、幼稚園の送り迎えができなくても、妻として、母として、以前と同じく認め、信じて、愛してくれた。だからこそ、その家族のために、誇らしい妻、強い母でありたいと思い、闘病を公表し、語ります。

そして、多くの人とのつながりをもちながら、与えられた時間を、病気の色だけに支配されず人生をより色どり豊かなものにするために生きられました。

彼女の生き方から学ぶことは、人は死を前にしても、強く生きる可能性があることです。ただ、これで終わりではありません。

彼女のメッセージは、これから生きようとする家族や彼女を支えた多くの人たちに、これからも影響を与えていくことでしょう。

皆さんは、彼女からのどのようなメッセージを感じますか？

可哀想、ではないですね。

人はどれほど大きな苦しみを抱えたとしても、人生を色どり豊かなものにできる可能性があることを、彼女は伝えたいと…私は感じました。

小澤竹俊

在宅医療政治連携

7月4日の夕方、永田町で在宅医療政治連盟発足の記念講演会があり参加してきました。台風が近づく中、400名を越えるそうそうたるメンバーが集まり、国会議員の挨拶を拝聴しながら、元厚労相事務次官辻先生の講演を聴きました。地域包括ケアシステムの各論として具体的な関わり方が問われると感じ、フロアから一言コメントしました。これからの活動を期待したいと思います。

在宅医を増やそうプロジェクト

7月8日(土)9日(日)に東京で在宅医を増やそうプロジェクトの企画でセミナーを開催しました。悠翔会佐々木先生、新宿ヒロクリニックの英先生と私がプレゼンをしながら、M3キャリアの青木さんにもお力を頂き実施することができました。①在宅医療の魅力を知る②社会的使命と課題を理解する③使命を果す・課題を解決するために何をすべきかを主体的に考え、学びを継続するきっかけをつくる④自身の進路として在宅医療を現実的に考えられるミッションに、AI（アプリシエイティブ・インクワイアリー）のポジティブアプローチを使い、4Dサイクルのワークを行いました。自分の強みを意識した上で、ビジョンを描き、その上で自分のミッションを青年の主張として発表して頂きました。

苦しみの中でも幸せは見つかる

2004年2月に、このタイトルで1冊本を書きました。まだ前任の横浜甞生病院ホスピス病棟にいた頃です。この度、いくつか書き直した上で、改訂版として再出版することになりました。人はたとえ大きな苦しみを抱えたとしても、幸せを見つける可能性があります。今の活動の原点となった一冊です。

診療実績

	2006- 2016年	2017年 1-3月	4月	5月	6月	2017年 計	総計
訪問回数	50,852	2,290	732	768	765	4,555	55,407
自宅永眠	1,769	43	22	22	17	104	1,873
施設永眠	218	11	6	6	8	31	249
在宅 (自宅+施設)	1,987	54	28	28	25	135	2,122
病院永眠	487	29	10	5	8	52	539